

教育理念	一 真理の探究 一 自他の敬愛 一 責任の完遂		
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸ばさせる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。		
中期目標	(1) ライフプランを確立させ、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 十分に体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	総合評価	・各部署による自己評価の結果は、ほとんどがA評価であり、年度当初の目標が概ね達成できたものと考えられる。 ・生徒が進路目標を明確に持ち、その実現に必要な学力を身に付けられるよう、来年度以降も引き続き指導することが重要である。 ・中学校や地域との連携を進めることができた。来年度も、総合学科への理解を深め、本校を意欲的に志願する中学生が増えるように取り組むことが必要である。
今年度の重点目標	① 生徒の進路実現に向けた学力向上への取り組み ② 生徒一人ひとりが達成感を得ることのできる学校づくり ③ 地域社会と連携した、開かれた学校づくり ④ いじめや体罰のない、安心安全な環境の確保		

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 生徒が生き生きと学校生活に取り組み、確かな学力と豊かな人間性を身に付けられるよう、他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③	ア. 月暦・日課等の周知・徹底 イ. 授業研究・授業公開等の推進・サポート ウ. 各種研修の推進・サポート	A	・円滑な学校運営ができた。 ・研究授業等をさらに充実させることが望まれる。	・研究授業が活発に開かれるように各教科にはたらきかける。
	2 本校の教育内容とその成果を積極的に中学校、保護者、地域に発信し、地域に信頼される学校づくりに努めるとともに、意欲をもって本校を志願する中学生が増えることを目指す。	②③	エ. 公開授業および体験入学の充実 オ. 中学校訪問および中学生への広報活動の充実 カ. Webサイトの活用 キ. 入学者選抜(前期選抜)の改善と中学校への周知	A	・公開授業・体験入学には多くの参加者があったが、来年度さらに参加者を増やす取り組みが求められる。	・出前授業・進路講話等、中学校との連携をより緊密にする。
進路指導	1 学年・教科・キャリア教育推進部と連携して、体系的・組織的に指導できる体制を整える。	①②	ア. 基礎学力を増強するための取り組みを進め、年度を超えて活用できるシステムやノウハウを積み重ねる。 イ. 新テストへの研究を深める。	A	・新テストで求められる学力を職員で共有することができた。 ・教育課程の編成との連携が必要。	・制度の変更や上級学校の改組などをさらに研究する。
	2 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る。様々な資格試験の受験を奨励する。	①②	ウ. 補習授業(桔梗塾を含む)の実施回数及び参加者数の増加。種々の検定試験の受験者数の増加。自習室利用者数の増加。 エ. 進路実現の向上。特に、公務員試験と国公立大学・短大への挑戦を促す。	A	・土曜補習を積極的に実施できた。 英語検定をはじめとして、上の級に挑戦しようとする生徒が増えた。 ・国公立大学推薦入試に意欲的に挑戦できた。 ・センター試験の得点率向上が課題。	・より早い時期から意欲的に学習する学習集団を形成できるよう工夫する。
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止	②③④	ア. 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ. 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラーの有効活用などで生徒や保護者を支援する。 ウ. HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	A	・生徒動向を職員間で共有し、多くの目で見守り、生徒支援に努めている。 ・交通安全、ネット利用について等講演会や連絡などを実施したが、特にSNSの使用については注意が必要である。	・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、生徒の状況把握に努める。 ・各種講演会の充実、機を捉えた注意喚起を行う。
	2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える	②③④	エ. 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 オ. 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	A	・友人関係のトラブル等、悩みを抱える生徒も多い。 ・SC等活用し、多くの生徒の支援を行うことができた。	・アンケートの実施や職員間での情報共有は継続して行う。 ・学年、各部等、職員の連携による相談体制の充実。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
キャリア教育推進	1 キャリア教育の充実	①②③	ア. 三年間の体系的な計画の基、各学年ごとに適切な指導ができたか イ. 生徒が将来の目標達成に向けて主体的に活動できるよう、段階を追って活動の場を設けることができたか	A	・計画通り諸活動を実施することができた。生徒の進路意識の高まりを感じることができた。一方で1年生の行事が詰め込み過ぎではないかとの懸念もある。	・1年生の「産社」の学習内容とスケジュールを見直し、時々の生徒の状況をみながら柔軟に対応できる指導体制を作る。
	2 科目選択の充実	①②③	ウ. 生徒が、希望する進路に向け、適切な科目選択ができるように指導体制を整えることができたか エ. 点検・確認の機会を作り、適切な助言を与えることができたか オ. 職員間で生徒の情報を共有し、検討する機会がもてたか	A	・生徒が科目選択と真剣に向き合い、悩み、決断に至る過程を大切にしながら指導に当たることができた。進路に関する情報を十分理解しないまま夢や希望を語る生徒、学習量が進路希望に追いついていない生徒などへの対応が課題である。	・現在検討中の新年度の科目選択制度に合わせて、模擬授業の実施方法を工夫する。また、進路指導と連携し、生徒の学習姿勢や学習意欲などにも目を向けながら科目選択指導を行う。
	3 将来構想への取り組み	①②③	カ. 他校総合学科と連携することができたか キ. 地域との関わり方について検討し、連携を深めることができたか ク. 本校の将来構想について計画的な取り組みができたか。	A	・地域連携として今年も出張シリレミを実施できた。 ・教育課程委員会と連携して将来構想の検討を始めた。 ・遠隔教育システムの導入に伴い、蘇南高校との連携授業をどう具体化するかが課題である。	・本校が総合学科高校であることの「強み」を全職員で共有できるように、研修の機会や意思疎通の場を作る。
生徒会	1 生徒会活動に参加することで、生徒相互の豊かな人間性を育てる。	②③④	ア. 学校生活の中で行われる様々な生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを強くすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。	A	・クラスマッチ、文化祭等、各行事を通じてクラス内のコミュニケーションを深める事ができた。校外のボランティア活動や各種会議に参加することで、地域との連携など校外に向けた意識もついてきた。	
	2 生徒自らが、自覚と責任を持って主体的な活動が出来るように支援する。	②③④	イ. 明確な目標を持たせ、立案・企画運営を行わせることで、リーダーとしての資質を向上させる。	B	・積極的な意見交換の中で、自覚と責任を生み出すことができた。そうした活動の中、生徒達が自らの働きで校内の雰囲気を変えられることができていることに気づけた。	・目標を明確にさせ、目標達成のための企画運営ができるように、職員が支援する事が必要である。
図書・視聴覚	1 図書館運営の充実を図る。	①②③	ア. 図書館利用の活性化が図れたか。 イ. 生徒による利用の向上、授業での図書館利用の拡充。 ウ. 図書委員会による積極的な広報活動を行う。	A	・委員会の「図書館だより」を通じて、本の貸し出し数が増えた。授業における図書館の活用が増えた。	・図書委員一人ひとりによる広報活動の機会を増やし、図書館利用の拡大を図る。
	2 視聴覚教育の充実を図る。	②③	エ. 視聴覚教室の利用促進が図れたか オ. 芸術鑑賞の円滑な運営が図れたか	A	・視聴覚室及び機材の授業・部活動での活用が増えた。芸術鑑賞は概ね好評であった。	・引き続き、視聴覚室の授業等での活用を増やすよう働きかける。
保健厚生	1 校舎内外の美化・清掃の強化	②③	ア. ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化	B	・ゴミの分別・減量にさらに取り組んでいきたい。 ・責任を持って委員会活動ができるようになってきた。	・引き続き各クラス・クラブ等に呼びかけていきたい。
	2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	②③④	イ. 保健委員会と職員の協力体制を確立する ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究をする	A	・職員の協力を得てスムーズな運営ができた。	・多忙な本校職員の健康管理と様々な薬物教育や性教育の充実に努めていきたい。
	3 職員厚生の充実	②③④	エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	・外部講師を迎えて、昨年以上の参加者により計画通り実施することができた。さらに参加者が増えるように工夫したい。	・新たな取り組みを模索していきたい。

## 部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
渉外	1 学年・学級PTAの充実	②③	ア. 総会・学年・学級PTAを開催する。 イ. 授業参観や講演会の企画を行う。	A	・年間計画通りに企画運営することができた。また授業参観・講演会の参加者は若干増えた。	・総会・講演会のPRは例年新年度スタートからPR期間が2～3週間しかなく、係として入学式・始業式から職員会・学年会を通じて周知を図る
	2 PTA活動参加拡大に向けた広報活動の充実	②③	ウ. PTA研修旅行やPTA研修の広報活動に努める。 エ. PTA通信を発行する。	A	・充実した研修旅行が実施できた。双方とも想定した参加者数を上回った。PTA会報は卒業式に配布予定。	・会報にPTA活動の様子を掲載する事で、本活動の魅力をPRする。保護者が楽しむPTA活動として位置付けする。
	3 保護者のとの連携強化	②③	オ. 大会出場生徒(北信越大会以上)への活動助成。	A	・生徒が部活動等において一層活躍できるよう、同窓会とも連携を深めながら支援する事ができた。	・北信越大会以上への出場選手・団体について同窓会との連携を密にし、大会出場前の支援に徹する。
1 学年	1 基本的な生活習慣の確立	①②	ア. 家庭との連絡が密にとれたか イ. 能率手帳を活用し生活習慣の意識付けができたか	B	・日頃から家庭との連絡を密にとることができた。手帳については全員がしっかりと活用するまでには到らなかった。	・手帳の活用については、毎日のSHRで全員に開かせる、提出して活用状況をチェックする等、教員の指導を徹底したい。
	2 学習習慣の確立	①②③	ウ. 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか エ. 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	・各教科で家庭学習を取り入れたことで、学習習慣が定着してきた。科目選択やライフプラン作成により将来のことを考える機会が増え学習意欲を高めた生徒が増えた。	・補習授業や個人指導を、早くから計画し実行する。
	3 相互理解を深める	②③④	オ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか	A	・学級単位の行事やレクを通して仲間意識を深めることができた。またクラスの枠を超えて、悩みを抱える生徒の話をじっくり聞くことができた。	・生徒にとって、教室が安心できる場所になるよう、SSTなどの活動を実施し、今後も人間関係を注意深く見守りたい。
2 学年	1 進路意識の高揚	①②③	ア. 学習意欲を喚起できたか。 イ. 資格取得への積極的なアプローチができたか。 ウ. 個別に、学力・生活状況に応じた相談、助言ができたか。	B	・進路に応じた科目選択等において指導助言ができた。 ・各種検定を積極的に受験するよう指導し合格者が増えた。	・年度当初からさらに能動的に補習授業などを計画する。
	2 研修旅行の充実	②③④	エ. 労働を考えるきっかけを与えられたか。 オ. 平和学習の充実が図れたか。 カ. 相互理解を深め、協力・協働体制がとれたか。	A	・充実した事前学習のもと、旅行中は進路や平和について真剣に考えられ、その上で自分の役割を自覚した協力体制が作れた。また事後学習も充実させることができ、目的を達成できた。	
3 学年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③	ア. 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチが図れたか。 イ. 卒業生アンケートによる満足度の向上が得られたか。 ウ. スコア手帳を使って受験準備など計画的に活動できるようになったか。	A	・各種の補習等に参加することで、学力や資格取得への意欲が向上し、進路実現に繋がった。 ・スコラ手帳によるスケジュール管理ができる者が多くなった。	・進路については本人・保護者と綿密に連絡を取り、納得のいく進路選択を目指す。 ・今後も進学補習等の体制を図る。
	2 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	エ. 学校行事、生徒会行事において責任ある活動ができたか。 オ. 規範意識の向上、社会性が身につけられたか。	A	・各種行事では責任を持って活躍することができた。 ・仲間への配慮や自己管理、自己責任等、社会人としての意識がもてるようになった。	・早い段階からの意識付けができるような取り組みが必要。